

ちかい

2012

彼岸号

VOL.134

浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺



◆ 総本山誓願寺所蔵「一の谷・屋島合戦図屏風」(部分) ◆

◆ 目次 ◆

- 慈光〈第20回〉
- 賢問子行状記④
- お釈迦さまのご生涯 7
- 御忌法要のご案内

- インド **ドタバタ** 夫婦道中記 ②⑧
- 総本山誓願寺だより
- 何でも“お寺探偵団” Vol.32
天澤山 西光院 常福寺

慈光 20



「慈光」。万物を育成し世に恵みを与える光。大慈悲の光明。阿彌陀さまの分け隔てのない暖かい優しい光。私たちはこの光を頂き、生かさせていただいております。慈光に照らされた私たちの生活を今一度考えてはどうでしょうか？ タイトルの「慈光」は、鈴木皓道先生のお寺本宿町「慈光院」より拝しました。

【心の姿勢】

ある脳外科医の言葉によると、性格に関わる人間の遺伝子は、「八三五万分の一」が子どもに伝わるそうです。昔から、親の遺伝と言われているが、全く無に等しいと思われま

す。それでは、なぜに巷間では、「あの人は親とそっくり似ている。親からの遺伝だ」と言うのでしょうか？

それは、遺伝ではなく、子どもを育てる親の心の姿勢が原因です。新生児の脳は、全く濁り汚れはありません。

ところが育てる親の、無反省、不道德、慢心、口争

いなどの汚れ濁った言語動作を新生児が脳に肌を感じて成長するのです。

それでは、どうすればよいか？今からでも遅くありません。私どもは自分自身の心の汚れを一つ知ることです。「わずか一つ」です。

しかし妙なもので、一つ知ることによって、日常生活の周囲が自然と解つてくるのです。

道元さまが、仏教勉強の為に中国にお越しになった折、中国の老僧が椎茸を乾かしていました。

日本では、こんな事は修行中の僧のする事だ…。思わず、

「若い方々の仕事でしょう

に」。

「日本のお坊さん、これが私のする事です」。

ハッとしました。自分の作すべき事。そして、自分がしてはならぬ行いを教わったのです。道元さまはこのことを心に深く刻み生涯を通されました。

自分の非を「ただ一つ知る」。

これを積み重ねて人生の浄化に努力したいものであります。

布教講習所所長
慈光院住職

鈴木 皓道



けん むん し ぎょうじょう き 賢問子行状記

4

小島英裕

第二話

けんもんし

賢問子、唐に渡る

(後編)

賢問子は百済くだらの港に到着し唐に到り、

役所に仏師となる願いを出しました。

唐の皇帝は「未成年の若者が来て、仏

を造り人々と縁を結ばせようとは感心

だ。望み通り仏像造りに専念せよ」と

命じました。賢問子は身丈三尺の阿弥

陀仏を七十五日間で完成させました。

大願が成就した賢問子は、一刻も早

く母の気持ちを安らげようと帰国の願

いを出しました。ところが皇帝は残念

に思い「もうしばらく国に滞在し、

もう一体の仏を造ってから帰るよう

に」と命じました。賢問子は重ねて

「私には老いた母がいます。一日も早

く帰って親孝行を尽くしたい」と再三

お願いしました。

皇帝が大臣を集めると、その中の一

人が言いました。「賢問子は母に思い

を寄せ魂は日本にあります。男性が女

性に恋心を持つのは世の習い。宮中で

一番美しい女性を妻とすれば古郷を忘

れこの国に留まるでしょう」。さつそ

く柳宮女りゅうぐうにょという美女が賢問子の妻とな

りました。さらに船着き場には見張り

が設けられ、賢問子の帰国を阻止しま

した。

「天を駆けても地に潜ってでも、早

く日本に帰りたい。日本の神さま仏さ

ま、そして母が祈られた春日大明神さ

ま、もう一度母に会わせてください」

と賢問子は合掌して祈りました。賢問

子は「細工で木の鳥を造り、両方の翼

に手を入れ、海の上を飛んで帰ればい

いのだ」と思いつきました。これは人

間の力が及ぶことではありません。

「春日大明神さま、お力をお与えくだ

さい」と、毎晩細工部屋に入り作業を

進めました。

おおかた完成した頃、鳥の腹の中に

体を入れ両方の手を動かしてみると自

在に飛べるではありませんか。「今夜飛

んでみよう」と喜びが込み上げました。

しかし皇帝より賜たまわった妻に一言の挨拶

も無いようでは日本の恥だと思い、

柳宮女に話をしました。「世話になっ

た情けは忘れないが、母を見捨ててこ

の国にいれば孝行を尽くす心を忘れて

しまう。近い内に日本に帰ろうと思

う」。それでも柳宮女は「船着き場

には見張りがあるから帰れないでしょ

う」と気に留めませんでした。

(つづく)



妻に別れを告げる賢問子(誓願寺縁起絵 第一幅)



マールに誘惑されるゴータマ

文・釈尊法話会 絵・豆田 織奈

お釈迦さまのゴースト生涯 7

降魔
ごうま



アシュバツタの木（菩提樹）の下に座ったゴータマ（お釈迦さま）は、静かに瞑想（座禅）をはじめました。心を落ち着けて精神を集中し、人間の苦しみはどのように起こるのか、原因は何であるかを考えはじめました。苦しみの原因さえ分かれば、人々は救われ、豊かな人生が送れるだろう、と考えたのです。

そこに、ゴータマの瞑想を邪魔する者達が現れました。マール（悪魔）がゴータマの周りに集まり、様々な誘惑をはじめました。美しい女性の姿になり色目を使い、たいそう豪華な食事を目の前に出しました。また、蛇や虫にゴータマの体を傷つけさせました。

しかし、マールの邪魔にも屈することなく、ゴータマは瞑想を続けたのです。



ぎよき 御忌法要のご案内

平成24年4月23日(月)～25日(水)



「一枚起請文」奉読

昨年は、「法然上人八〇〇回大遠忌」の記念すべき年に当たりました。今年は、また例年どおりの「御忌」、すなわち法然上人追慕報恩の800年目のお勤めが総本山誓願寺にて執り行われます。西山深草派の僧侶と檀信徒が集い、法然上人のご遺徳をお偲びして、共にお念仏をお称えしたいと思います。多数のご参詣をお待ちしております。

なお、団体参拝の募集等につきましては、それぞれの菩提寺^{だんな}にお尋ねください。

表紙の解説

総本山誓願寺所蔵「一の谷・屋島合戦図屏風」は、狩野光信（一五六五―一六〇八）筆と伝えられる六曲一双の豪華な屏風絵です。金箔をふんだんに用いて、『平家物語』の世界を描いています。右隻は一の谷の合戦、左隻は屋島の合戦を主題としています。

表紙の絵は、有名な源義経の「鴨越の逆落とし」の場面です。急な傾斜を駆け下りる武者の団を、迫力ある筆致で表現しています。本作品は、特別展「NHK大河ドラマ五〇年 平清盛」展にて展示されていますので、機会がありましたらぜひ実物をご覧ください。

【会期と会場】

◎二月二十五日(土)～四月八日(日)
神戸市立博物館
神戸市中央区京町二四

電話〇七八三九一〇〇三五

◎四月二十一日(土)～六月三日(日)
広島県立美術館
広島市中区上織町二二二

電話〇八二二二二六二四六





動き回っても 心身休まるアジャンタ

アジャンタの幾つもの窟院に入ったり出たり繰り返して、日の差さない窟院内はひんやりとして気持ちが良いが、外に出て、特に直射日光に当たると非常に暑くて汗ばんでしまう。窟院内での修行は、この時期に限っては快適だったに違いない。

三時間ほどかけて窟院を見たら、寺院群が一望できる見晴らし小屋に登った。十五分ほどで行ける場所だが、整備された道ではなく、細く曲がりくねった踏み分け道で、一九八九年にもこの道を通って登ったのである。見晴らし小屋に到着し、まわりを見下ろして休んでいたら、二〇才前後の男の三人連れが来たので話しかけてみた。

八九年にここで会った、パラカースという名前の青年を知っているか聞いてみた。当時一〇才くらいの、ミルクを入れるアルミ製の大きな容器

を、一つは頭上に乗せ、もう一つは片手に提げて親しげに近付いてきた少年である。彼らは顔を見合わせ、知っていると答えたが、今はここに居ないとのことだった。写真を何枚か撮らせてもらい、僕たちは再び来た道を降りた。いつの日か彼らに再会してみた、ふと思った。

一時預かりの場所に戻り、バゲージを返してもらい、アウランガーバード行きのバスを待った。午後の日差しはとても暑く、朝食を食べた店のそばの茶店に入り、チャイやジュースを飲みながら身体を休めて待っていたら、小一時間してバスは来た。アジャンタからアウランガーバードまでは南西に約一〇〇キロメートルで二時間半ほどかかる。料金は一人六〇ルピー（約一五〇円）だった。

アウランガーバードに着いたのは、夕方五時頃だった。バス・スタンドを出て駅のあ

ながら歩いた。最初に通りの左側に見つけたホテルに入り、聞いてみたら満室とのことだった。更に南に歩いて行くと、今度は右側に円筒状のホテルがあり、ツインの部屋が二つ空いているとのこと。取り敢えず両室を見せてもらい、値段を聞いたら二七五ルピー（約六九〇円）で妥当な額だと思い、両室を比べても大した違いもなかったため、その片方に決めた。『地球の歩き方』の本にも、このホテル・デヴプリヤは載っていて、金額もピッタリだったので、ひとまず安心して、一階の受付カウンターに戻り宿泊手続きをとった。



アジャンタ 見晴らし小屋にて

総本山誓願寺だより

少年少女参拝団 参加者募集

毎年夏休みに行っております。本年は、八月二十日(月)～二十一日(火)の二日間が日程となり、小学五～六年生を対象に六十名を募集予定としております。定員になり次第締め切らせて頂きます。六月下旬に各寺院へ募集要項をお知らせしますので、詳しくはそちらをご覧ください。



おもな行事予定

- 三月
 - 十四日(水) 善導忌・六阿弥陀功德日
 - 十七日(土)～二十三日(金) 春彼岸
 - 二十日(火) 春分の日
 - 二十六日(月)～四月四日(水) 法脈相承
- 四月
 - 七日(土) 花まつり
 - 十五日(日) 六阿弥陀功德日
 - 二十三日(月)～二十五日(水) 元祖法然上人御忌法要
- 五月
 - 十八日(金) 六阿弥陀功德日
- 六月
 - 二日(日) 和泉式部忌
 - 十九日(火) 六阿弥陀功德日
- 七月
 - 十四日(土) 六阿弥陀功德日
- 八月
 - 十五日(水) 六阿弥陀功德日
 - 十六日(木) 精霊送り・盆施餓鬼
 - 二十日(月)～二十三日(火) 少年少女参拝団

訂正 前号(133号)賢問子行状記③の副題「第三話」を「第二話」に訂正致します。

クイズコーナー

【問題】

西尾市常福寺にある高さ16メートルの仏さまは「刈宿の○○○○○さん」と親しまれています。○に入るひらがな5文字でお答え下さい。

刈宿の○○○○○さん

官製はがきに、答えと郵便番号、住所、氏名、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いて送ってください。その中より選り紙面づくりの参考とさせていただきます。今回は、常福寺さまより常福寺特製手拭いを2名さま、本山謹製線香を5名の方に、合計7名の方に抽選にて差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】〒444-1353

岡崎市藤川町字中町南十五

稱名寺内 ちかい編集係

答え ○○○○
郵便番号
住所
氏名
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】五月十日
(消印有効)

ちかい 第134号

発行日 平成二十四年三月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二一〇九五八
FAX (〇七五) 二二二一〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL http://www.fukakusa.or.jp/

何でも

お寺探偵団

常福寺
じょうふくじ

Vol.32



profile

わた なべ じゅん いち

渡邊 順一 師 (常福寺 第28世) 昭和40年(1965年) 11月22日生(46歳)

信州大学人文学部東洋史学専攻卒業。平成11年常福寺第28世晋山。趣味は読書。

今回は西尾市刈宿町の「天
澤山 西光院 常福寺」を訪ねま
した。

Q1

お寺の由来を
教えてください。

長徳2年(996)、多田源氏
満仲公の一子満国がこの地に
来て住し、仮の宿と称しました。
満国は亡き母の追善菩提の為
にこの地に堂宇を建立しました。
その後、宝徳2年(1450)堂
宇を再建しましたが天災にあい、
宝暦元年(1751)再々建しま
した。

Q2

大きな仏さまが
いらっしゃいますね。

「刈宿のおおほとけさん」と
親しまれている大仏は、阿弥陀
如来座像であり、昭和の大典を
記念し、昭和3年に建立され、

翌4年に開眼されました。鉄筋
コンクリート造り、総高16メー
トル、座身8メートル、お顔2.
5メートル、両膝の幅6.4メー
トル、蓮台2.4メートル、台座
3.3メートルもあります。内部
は空洞になっており、阿弥陀如
来像が祀られています。大仏建
立当時、寺には山門がなかった
ので山門のかわりに南西の角
に建てられました。また漁師の
海の安全を祈願し、海の方
向に向けたと伝えられています。

Q3

お寺の宝物は
何ですか？

本堂内、向かって左の余間
にお祀りしている不動明王さま
です。これは、そもそも京都の石
清水八幡宮にあった仏像です。
廃仏毀釈の折、明治2年(186
9)5月28日、本地仏の丈六

阿弥陀如来像等と共に総本山
誓願寺に移され、その後、縁
あって当寺にお招きすること
になりました。西尾市の文化財に
指定されています。

Q4

「ちかい」読者に一言
をお願いします。

私が幼い頃は、この大仏さん
のまわりが子どもたちの遊び場
でした。これからも、年齢を問
わず誰もが集える場所として、
お寺が地域のみなさんを繋ぐ
場でありたいと願っています。

毎年4月初旬の日曜日には、
大仏法要を勤修いたします。ぜ
ひ「刈宿のおおほとけさん」に
お参りください。

Q4

「ちかい」読者に
何か頂けませんか？

常福寺特製手拭いを2名の方
にさしあげます。

【交通】

名鉄東部交通バス 刈谷(循環)
「西尾駅」発「刈宿」下車 徒歩5分
ふれんどバス(碧南～吉良吉田)
「刈宿」下車 徒歩5分

【主な行事】

七草法要 1月初旬の日曜日
大仏法要 4月初旬の日曜日
盆施餓鬼 8月10日

【お問い合わせ】

常福寺
〒444-0321
愛知県西尾市刈宿町出口50
TEL 0563-59-7847
FAX 0563-59-7549



◀ 不動明王(西尾市文化財)



◀ 本堂



◀ 刈宿の大仏(おおほとけ)さん